

1.

(1)3 (2)1 (3)3 (4)3 (5)2 (6)3 (7)1 (8)2 (9)1 (10)3 (11)3 (12)2 (13)1 (14)3 (15)1 (16)1 (17)2 (18)3 (19)2 (20)1

2.

(1) on (2) of (3) than (4) on (5) of (6) on (7) by (8) for (9) on (10) to (11) by (12) in (13) in (14)with (15) at (16) to (17) for (18) by (19) Despite (20) from

3.

(1)feel like (2)carry out (3) accounts for (4)part in (5) do with (6)participate in (7) little with (8) worth reading (9) something do (10) It worth (11) a lot (12)keep with (13) much with (14) catch with (15)no telling (16) There knowing (17) God knows (18) help to (19) Talking of (20) Speaking of

4.

(1) a(2)d (3)c (4)c (5)b (6)a (7)c (8)b (9)d (10)c (11)c (12)a (13)c (14)b (15)a (16)b(17)d(18)c(19)c(20)d (21)b (22)c (23)c (24)a (25)c (26)c (27)d (28)a (29)a (30)d (31)c (32)d (33)c (34)c (35)d (36)a (37)d (38)a (39)a (40)d

5

(1) What do you study English for?

(2) I can't agree with his ways for my part.

(3) Once-secure, this tenet is now being challenged.

あるいはThis once-secure tenet is being challenged now.

(4) What would you have me do?

(5) Don't let there be any mistake.

(6) Her mother's hope is for her to marry a doctor.

(7) These manuscripts had no value for my research then.

(8) I cannot make out what you want.

(9) What do you want me for?

(10) To be frank he sang a song out of tune.

(11) Hard work is required of them to pass the final test.

(12) Don't be long about it.

(13) She is likely to agree to our plan.

(14) He made ten spelling mistakes in as many lines.

(15) You have eased my mind to a great extent[degree].

6.

(1)4(2)3(3)4(4)4(5)4(6)4(7)3(8)1(9)1(10)4(11)4(12)1(13)3(14)3(15)4

7.

(1)

There is no denying that we have made great progress in scientific and technological fields in the last 200 years, resulting in big improvements in our standard of living.

(2)

Nothing is more pleasant than the pure air in the highlands for those who work all day long in the dirty air in the central part of the city.

For those who are at work in the center of the city breathing the foul [polluted] air all day long, nothing is more refreshing than the fresh air of the highlands.

(3)

Even when they are transferred to somewhere else in Japan, it is not uncommon to take up their new post, leaving their family behind, for the sake of their children's education.

When they are transferred to another part of Japan, it is not unusual to go alone so as not to disrupt their children's education.

(4)

It is ironic that the more technology has advanced, the less interested young people has been in it.

Funnily enough, the young people's increasing dislike for technology seems to coincide with the increasing progress of technology.

(5)

Medical research shows that red wine prevents the hardening of the arteries. This is one of the factors that have made red wine so popular.

One factor contributing to the popularity of red wine is that, according to medical research, it prevents the hardening of the arteries.

8-1

言葉というものは、とても日常的な活動の一部になっているので、まるで呼吸や瞬きのような多少とも自然発生的なものだと思えるようになる人がいるかも知れない。もちろん、その問題について少しでも考えれば、言葉に関しては自然発生的なものなど何もないことに気付くはずである。子供は母国語を教えてもらわねばならず、それに必要な訓練には長い時間がかかる。言葉というのは遺伝的に受け継がれるものではない。それは、徹底した教育によってしか世代から世代へと伝えることが出来ない一種の技術なのである。

(1) ウ (2) カ (3) オ (4) ア (5) サ (6) シ (7) コ (8) ス (9) エ (10) セ

8-2

話すことはすべての言語技能のうちで最も難しい。その理由は、話すには言語技能全体を敏速に、かつ多くの場合自動的に、多少なりとも同時に行使することが必要だからである。話す時には止まって考える暇はない。ある程度の流暢さがなければ伝達作用がこわれてしまうからだ。ある言葉を流暢に話すということは、会話でその言葉を、現地の人達とほとんど同じ速さで使うということであり、同時に、話し方よりむしろ話の内容に精神を集中できるということである。発音の場合とちょうど同じように、意志伝達をうまく行なうためだけなら、現地の人達と全く同じ様に話す必要はない。ところが、伝達が行われたかどうかは、こちらが用いる言葉に対する、生まれた時からその言葉を使っている人達の対応次第なのだ。ためらいすぎたり、出だしを間違えたりすると、喋っていることを相手が理解しにくくなってしまうものである。それゆえ、意志伝達という点から言えば、流暢さという意味でも目標を高く抱くことが必要なのである。

(1)ウ (2)チ (3)コ (4)ツ (5)オ (6)エ (7)イ (8)ク (9)シ (10)キ

【設問解答】

A 全訳下線部 (1)はどこまで意識を求められるかはともかく,まったくの直訳は避けたい。

B (a)to (b)from (c)in (d)on (e)on (f)for

C 1, 2, 5

1は第4段落の第1文と一致。 2は第7段落の第2文~第3文と一致。 5は第6段落の最後の文と一致。

【全訳】 男女の間に違いがあることはこれまで常に明らであった。しかし,両者の脳に違いがあるという理論 [学説] はそれほど明確ではなかった。今では,研究によって,男女の脳は微妙に異なることが確証されつつある。

(1)男性と女性が互いに異なっていることは,ノーベル賞受賞者でなくてもわかる。女性の生殖器と男性の生殖器を含め,人間にはそれぞれの性に固有の特徴があることはよく知られている。しかし,呼吸から感情にまで及ぶ,すべての身体活動を制御する器官についてはどうであろうか。女性の脳は男性の脳と異なるということがあるのだろうか。この考えは,長年議論されてきた。

今では研究の積みね [蓄積] によって,男女間の脳に実際に微妙な違いのあることが分かっている。

1960年代の後半から1970年代の前半にかけて,科学者たちは,少なくともネズミやハツカネズミのような哺乳類には脳の違いが存在するという最初の明確な証拠を発見した。ある研究によって,飲食物の摂取や生殖にとって要な,視床下部として知られる脳の領域の神経細胞の大きさに違いがあることが分かった。また視床下部の色々な領域に関する別の調査によって,雄ネズミと雌ネズミでは,神経細胞の或る特定の接合部の構造が違うことが分かった。こうした神経細胞の接合部は,シナプスと呼ばれるが,神経細胞が情報を伝達する部分[場所]である。科学者たちはまた接合部の数が違うことも発見した。

それ以来,研究者たちは,人間や他の種の動物における多くの違いを発見してきた。こうした発見の多くは,生殖に関するものにとどまらない。例えば,研究の結果,人間の男性の脳は,平均して,女性の脳よりおおよそ10パーセント大きいことが分かっている。しかし,女性の脳の或る特定の領域には,男性よりも多くの神経細胞がある[含まれている](ことが分かっている)。

現時点では,研究者たちは,構造的な違いが脳の機能にどのように影響を及ぼすのか分かっていない。男女の脳は似たような能力を発揮して働いてはいるが,異なる方法で情報を理している可能性がある。たとえば,ある研究によって,一連の無意味な言葉を読んで韻を踏んでいるかどうかを判定するように求めるテストでは,男性と女性は同程度の成績を示すことが分かっている。しかし同じ研究は,そのテストに答

える [を完成する] のに,女性は右脳と脳 [脳の右側と側の領域] を使っているが,一方,男性は脳しか使っていないことを証明している。

別の研究は,平均すると,女性の脳のほうが(行なうのが)より優れている技能もあれば,男性の脳のほうがより高いレベルで実行している技能もあることを示唆している。例えば,テストをすると,女性は一般に一連の言葉や何段落かの文章 [本文]を男性よりもよく覚えることが分かる。一

方,男性は通常,問題解決のために図形のイメージを頭の中で回転させる能力を必要とするテストでは,女性よりも優れた成績をあげる。研究者によると,頭の中で図形を回転させることは,人が目的地に辿り着くのに役に立つと考えられる。そのために女性のほとんどが道に迷うことになるのだろうか。明らかにそうではない。女性は記憶力の良さを生かして [に頼って] 目印を思い出し,目的地を見つけるのだろうか,と科学者たちは考えている。

研究者によっては,両性間で脳に違いあるのは理にかなっているという。(2)大昔,両性には,人類の存続 [生存] を確実にする [確保する] のに役立つ非常に明確な役割があった。穴居生活の時代には,男は狩りをし,女は住居の近くで食料を採集して子供の世話をした。男女がそれぞれの仕事を行なえるように,脳の各々の領域が発達した [鋭敏になった] のかもしれない。

9-2

【設問解答】

(1)c (2)a (3)b (4)b (5)d (6)a (7)d

(1) 第1段落の内容と一致。(2) 第2段落の内容と一致。(3) 第3段落の内容と一致。

(4) 第4段落の内容と一致。(5) 第5段落の内容と一致。(6) 第5段落の内容と一致。

(7) 第4段落の内容と一致。

【全訳】ラテン語は,文明世界の母国語と呼ばれることもあるが,古代ローマの言語 だった取るに足りない牧羊民族の話し言葉として慎ましく誕生したラテン語は,発展して西欧世界を支配するようになった。やがてラテン語は,古代世界の政治と交易と文学の言語になっただけではなく,ヨーロッパ,アジア,アフリカの無数の民族のコミュニケーションの手段にもなった。そもそもラテン語は,紀元前10世紀ころイタ

リア中央部のラティウム平原に住んでいた牧羊民族であるラテン人の話し言葉であった。この古代の種族の子孫がローマの都市を建設し,したがって彼らの言語がローマ人の言語になったのだ。時が経つにつれて,ローマはいっそう強力になり,次第にイタリア全土がローマに支配されるようになった。ローマによる征服は続き,ついには勝利を収めた兵士の足音が3つの大陸で聞かれるまでになった。ローマ人は,行く先々に自分たちの言語を持ち込み,征服された土地の多くで,ラテン語がその土地の人々の言語となった。エジプトのピラミッドの陰からラインランドの深い森に至るまで,東はチグリス川の流域から西は大西洋に至るまで,ラテン語が話された。人種と宗教と文明の程度が様々に異なる人々が,この言語に通じていた。

ローマの権力が衰えてローマ帝国が崩壊した後もずっと,ラテン語はヨーロッパの多くの地域で人々の日常語として生き続けた。けれども,やがて,ラテン語を話す異なる集団の間の接触はもはやあまりなくなったために,徐々に相違が生じてきた。ついには,その相違がたいへん大きくなったために,ある地域の人々は別の地域から来た人々の言葉を理解できなくなったのだ。こうした異なる種類のラテン語は,今日ロ

マンズ諸語として知られている。フランス語,スペイン語,ポルトガル語,イタリア語,そしてルーマニア語がそうである。

ロマンス諸語が発展する元となったラテン語は、一般大衆が話す言語である「平俗」ラテン語として知られていた。しかし、古代ローマの優れた著述家は文語的なラテン語 [古典ラテン語] として知られるものを使っていたが、これは日常使用されるラテン語よりも優雅で格調が高かった。この文語的なラテン語は中世を通じて話され書かれ続けた。大学の教師はラテン語で講義をし、学者や詩人はラテン語で物を書いた。ラテン語は政治と法律の言語であり続けた。中世には、ラテン語に通じている人間は、別の言語を知る必要なしにヨーロッパの端から端まで旅行することができた。というのも、あらゆる土地で、ラテン語を話す学識のある人間に出会えたからだ。

今日でさえ、ラテン語はその影響を広げ続けている。ロマンス語を話す人々による征服を通じて、ロマンス語はあちこちに持ち込まれてきた。たとえば、スペイン語はカリブ海と南米の多く地域だけではなく中央アメリカの言語でもある。同様に、フランス語はアフリカの多くの国の共通の言語である。現代世界の国際言語である英語は、すべての大陸で話され理解されている。英語は、ロマンス語のようにラテン語から

「派生」したものではないが、それにもかかわらず英語の語彙の半数以上はラテン語から来ている。さらには、科学技術という急速に拡大しつつある分野で使用される新しい単語は、絶えずラテン語を元に作られている。したがって、古代ラティウムの羊飼いが話していたころはおそらく古い言語であったラテン語が、今日も生き続けているのである。

9-3

【設問解答】

A.(1)4 (2)5 (3)3 (4)2 (5)1 (6)2 (7)5 (8)2 (9)5 (10)4

B.(11)1 (12)2 (13)4 C.(14)3 (15)5

【全訳】

体内で起こる何千という化学反応の多くを調べて、医療科学者は今では薬の身体に与える影響 [に及ぼす作用] をかつてないほど細かく調べることができるようになっている。このおかげで、研究者は思い通りに [意のままに] 新薬をつくり出すことができる。研究者は自然界になかった何千という分子をつくり出し、人間と動物の両方を治療する多くの薬を合成している。たいていの薬の分子には10から100の原子が含まれていて、こうした原子の結合の仕方は天文学的に多いので、彼らの仕事はとてつもなく大変なものである 以下はうつ病の治療のために開発された、ある薬の話である。

たいていの人はおそらく、生きていくなかで「気分が落ち込む」ことがある 仕事上のプレヤー、家庭の危機、愛する者の死 こうしたことを始め、他の多くの人生の出来事によって、私たちは、まるで自分の運命をどうすることもできないように感じることもある。その結果生じる「沈んだ」気分をうつ病と呼んでいる。これは「反応性」うつ病として知られている。こうした「反応性」うつ病は、何かを失った大きな悲しみや、転職に対するための方策を考えることに取って代わられる可能性がある一方、うつ病そのものは通常は長引かない。

しかし、このことが当てはまらない人たちもいる。そういう人たちは、たとえ明白な誘因[引き金]がないとしても、永遠に落ち込んだ気分だと言う。こうしたうつ病は数カ月あるいは数年続くこともあり、このことが、誘因のないことと相まって、臨床医の言う「真性」うつ病の特徴となっている。真性うつ病はただ人の気分が落ち込むだけではない。そうした人は非常に無感動[無関心]になる。つまり、社会的な役割を果たすことができず、他人と関わり合いたいと思わず、その結果、引きこもり、友人を失い、孤立するのである。彼らの動作と、そしてしばしば話し方が緩慢になり、しばしば食欲を失い、規則正しく食事をしなくなる。

臨床上、より深刻な種類のうつ病を完全に直すことができる最初の薬は偶然発見された。1952年には、フランの一部の研究者たちが、クロルプロマンがキフレニアの患者を落ち着かせるだろうと気づいていた。そこで製薬会社は、好ましくない作用を取り除くために、クロルプロマンの分子構造を改良[修正]した。ついに、製薬会社がつくった化合物をキフレニアの患者に試す準備ができた。その実験に関わった研究チームの一員であるアラン=ブロードハートはそのときの様子を次のように述べている。

最初は、ほとんど何も起こらなかった。それから、2,3日から数週間に及ぶ期間の内に、確実に、非常に明白な結果が現れ始めた。こうした結果は魅力的なだけではなかった。患者によっては、まったく驚くべき結果だった。それ以前は物静かだった数人の患者が、興奮の度を増してきて、症状が悪化し始めたのだ。私たちはひどく失望した。実験は中止された。

その後の数カ月にわたって、フランの科学者たちは自分たちの実験の結果を慎に分析し、その薬の作用の原因について論じ合った。そして彼らは、最も著しい興奮と激高を示した患者たちはキフレニアであると同時にうつ病でもあったことに気づいた。そこで、新薬をうつ病だけの患者に試してみようという考えが浮上した。40人の患者が治療を受けた後、G22355 — その製薬会社の、この薬品のコード番号が劇的で、そして今度は有益な反応を生じていることが明らかになった。

G22355の関連薬は、深刻な行動上のあるいは「心理的」な問題に苦しむ動物にも効くことが証明されている。このことは、動物も実際に人間の心と似た心を持っている十分な証拠となる、と主張する獣医学者もいる。この発見を始めとするいくつかの発見により、人間も動物も同じ種類の病気を持っていて、だから人間に効く医療は動物にも効く可能性があるという考えに対する信頼度が増している。今日では、膨大な発見の蓄積により、病気の主要な生物学的決定要因は理解可能であり、さらにそうした洞察によって、人間と動物両方の病気の治療方法を改善する道が開けるだろうという楽観主義が勢いを増している。